



維持管理を軽減するグランドカバープランツ



イワダレソウ改良品種

クラピア®



イワダレソウとは？

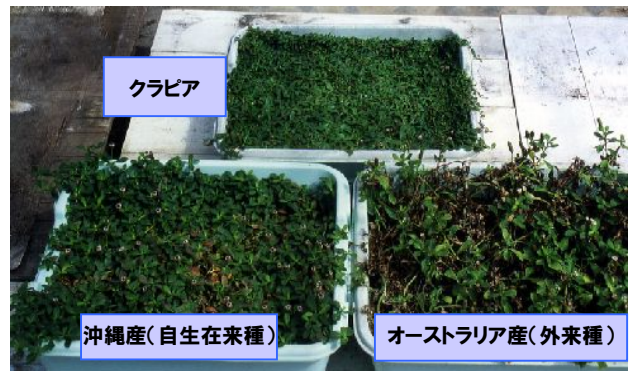
イワダレソウはクマツヅラ科の常緑性多年草 (*Lippia nodiflora* L) 地被植物で、日本では伊豆半島～南西諸島の海岸の砂地や岩地に自生しています。世界的には約 200 種あると報告されています。自生種の草丈は最高20cm 程度で緻密性、耐寒性に劣りますが、近年品種改良が進み、緻密で耐寒性に優れた草丈の低いイワダレソウ改良品種が開発されました。イワダレソウは CO₂ 固定能力に優れ、これからの環境緑化にあつた植物です。

ヒメイワダレソウと、どこが違うの？

クラピア
(在来種の改良品種)

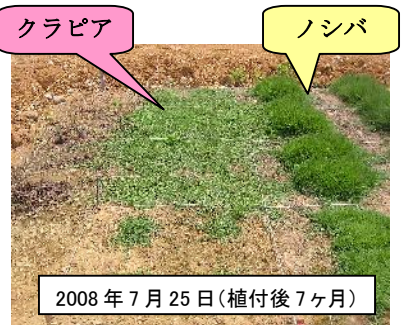


ヒメイワダレソウ
(外来種)



どんな特長があるの？

- 横方向への増殖性に優れ、緻密なグランドカバーをつくるため、低木・地被類と比較してコストダウンができる
- 草丈があまり伸びず上部の刈込作業が少なくなることから、維持管理費が大幅に軽減できる
- 葉と根茎が緻密なため、雑草の混入が少なく、土壌の流出防止ができる。根は土壌条件により 1.5m 以上伸長する
- 塩類濃度の高い土壌や乾燥地、やせ地に非常に強いため、場所を選ばず景観性に優れる
- 花穂は 1～2cm で 5 月～10 月頃まで薄いピンクの花を多数付けるが、改良により種子ができないため、周辺の生態系を壊さない
- CO₂ 固定能力に優れる



どんな場所に使えるの？

- 道路緑化・道路路肩
- 屋上などの都市緑化
- 公園緑化
- 法面緑化・保護
- 河川・海岸侵食防止



2ヶ月後



クラピアの増殖試験結果 (内径11cmのホールクッターで抜き取り定植)

	クラピア		ヒメコウライシバ		ヒメイワダレソウ	
	面積 (㎡)	増殖率 (倍)	面積 (㎡)	増殖率 (倍)	面積 (㎡)	増殖率 (倍)
1 ヵ月後	0.08	8.4	0.01	1.1	0.05	5.3
3 ヵ月後	5.3	579	0.27	28	3.8	400
5 ヵ月後	9.2	968	0.4	42	6.6	695

■試験地: 宇都宮大学 (栃木県)

■定植日: 2003 年 5 月 21 日

■管理条件: 無施肥

株式会社 ニチノ 緑化

東京都中央区日本橋小伝馬町 14-4
岡谷ビルディング 6F

TEL 03-3808-2281

http://www.nichino-ryokka.co.jp

スーパーイワダレソウの劣化耐性



クラピア(無管理3年)



コウライシバ(無管理2年)

■試験地:宇都宮大学(栃木県)

■評価

宇都宮大学の屋上での試験では、床土厚3cm程度の環境でも、クラピアには顕著な衰退は認められませんでした。



クラピアの耐寒性



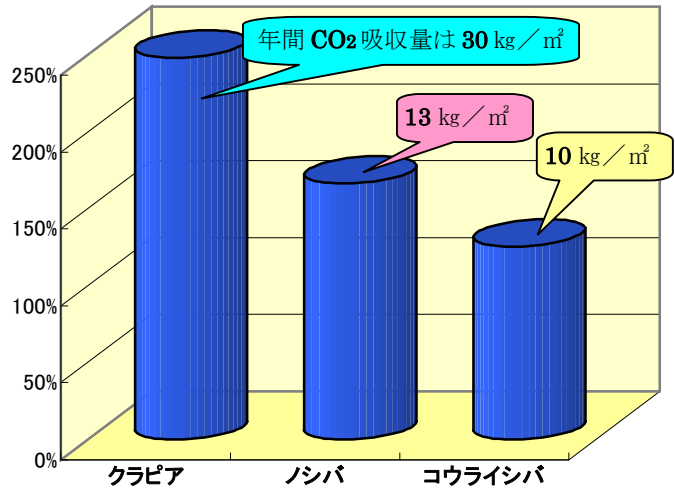
■写真撮影:2007年1月(凍結状態)

■試験地:宇都宮大学(栃木県)

北海道を除く全国での植栽が可能です。

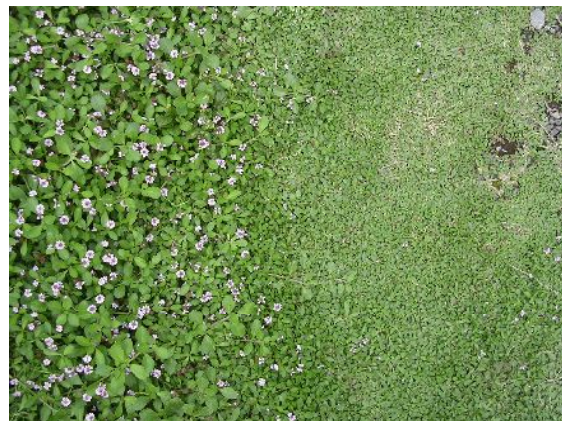
クラピアのCO₂吸収能力(*1)

CO₂吸収率(CO₂濃度380ppm環境下)



*1 40日間測定値

クラピアの踏圧耐性



■評価

1日当たり20人程度通行する踏圧の負荷には充分耐えるしかし日本芝のように多目的の広場に使える程の強さはありません。